

## マスコミ報道を利用した 労務管理に関する申し入れ

本部は2月15日、会社に対して『マスコミ報道を利用した労務管理に関する申し入れ』を下記の通り行いました。

乗務員室での煙草や眼鏡不使用、そしてパンタグラフのボルト付け忘れが発生し、マスコミが大きく事態を報道しました。会社は、このマスコミ報道を利用して、あえて事態を大きく社会問題化し、そして処分の厳罰化と配置転換など処分の二重化という厳罰主義に陥っています。このことは、安全を守るための原則である原因究明を逸脱した責任追及の他なりません。福知山線事故の本質的原因は、この責任追及体質が招いた事故でした。私たちは、このような労務管理を断じて許しません。

1. 会社は、社員が喫煙、眼鏡を外して運転した事象を、積極的にマスコミ発表した。会社はマスコミ対応を大きく変えたと考える。対応を変えた理由と目的を説明すること。
2. 一連の事象をマスコミに積極的に発表し、社会に広め、ことさら問題を大きくし、厳罰を持って社員を締め付けることは、職場で働く社員を不安にさせ萎縮させるものであ。したがって、社員の大きな精神的負担となり安全・安定輸送を損なうことになる。このような労務管理は直ちにやめること。
3. 1月29日に発生した新幹線の架線切断事故についても「架線切断は人為的ミス」「ボルト付け忘れという単純ミス」などとマスコミ報道された。そして、作業を担当した車両所の当該社員は日勤勤務を指定され、本来業務から外されている。これも見せしめの労務管理である。当該社員を直ちに本来業務に戻すこと。

**見せしめ・二重罰で安全は保たれない!**